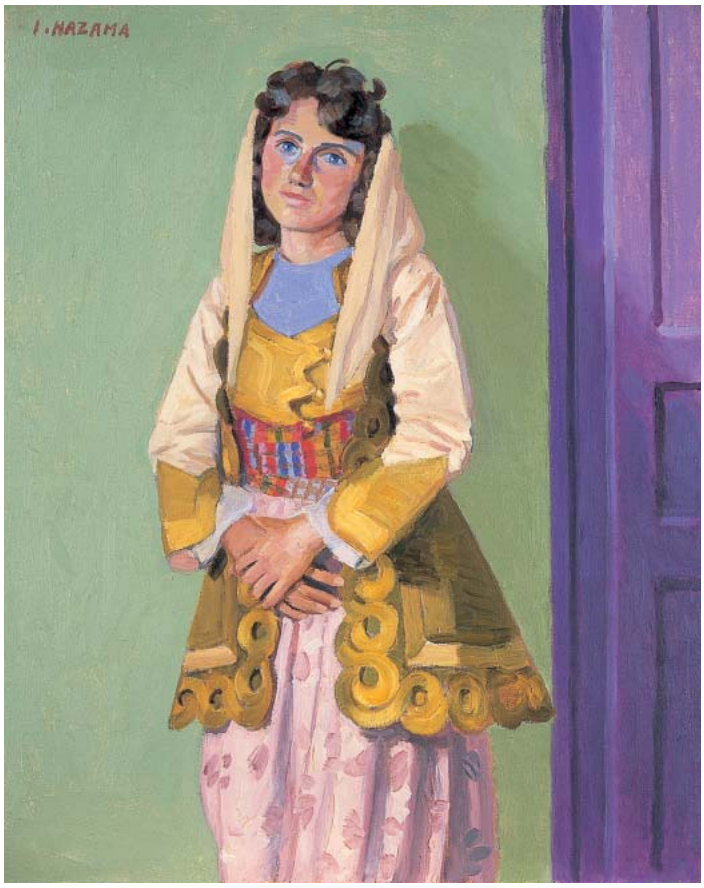
石川県立美術館だより

平成18年3月1日発行　第269号



アルバニアの花嫁　硲伊之助

特集
画家と絵皿

3月4日(土)～26日(日)会期中無休
午前9時30分～午後5時(入館は午後4時30分まで)

九谷呉須上絵大皿「蓑掛島之景」　硲三彩亭

目　次

天神画像と文房具、名刀と槍……2
画家と絵皿 ……3
万国博覧会の時代―明治の工芸― ……3
今月のコレクション展示室　主な展示作品…4
企画展TOPIC(広重･北斎･歌磨 UKIYO絵展)…4
展覧会回顧(没後20年　鴨居玲展) ……5
ミュージアムレポート ……5
企画展示室、各地の展覧会、次回の展覧会……6
17年度開催の展覧会(1)、3月の行事案内…7
所蔵品紹介、平成18年度友の会会員募集……8

URL　http://www.ishibi.pref.ishikawa.jp/

今月のコレクション展示室
（前田育徳会展示室）

特　集
天神画像と文房具
3月4日（土）～3月26日（日）

今回は前田育徳会の所蔵品の中から、前田家に伝わった「天神画像と文房具」の展示です。

平安時代の中頃、菅原道真を祭神とする天神信仰が発生し、その広まりにともなって、信仰に係わる造形も多様な様相をみせるようになってきます。それらは、菅公の生前の活躍や足跡に沿ったものであったり、死後の様々な伝承にちなんだものであったりしました。いずれも菅公個人への追慕尊崇の念と、当時の信仰・社会・文化的背景とが相まって作りあげられたものといえましょう。天神信仰は、以降、各階層に広まり、またわが国の宗教・文化においても大きな影響を示して今日に伝わっています。

加賀藩では三代藩主利常が、菅原道真を前田家の先祖であると主張し、隠居地である小松に天満宮を建立するなどしました。それにより前田家では篤く天神の信仰を進めるようになり、領内でもその信仰が広まることとなりました。

今回の展示では、藤原時平に陥れられて配流の身となった菅公を表す「胞輪天神画像」や「縄敷天神画像」、わが国の中世において禅宗と天神信仰とが結び付き、道服に梅樹などを持った姿で描かれる「渡唐天神画像」などをご覧いただきます。

文房具は、小品ながらも高価な素材に精密な技巧を凝らした優品が多くみられます。こうした文房具の蒐集は、文人のたしなみとして歴代藩主が行っており、中国伝来の名品がみられます。実用性とともに書斎の愛玩品としても鑑賞に耐えるもので、稀少な素材に工人が精妙を尽くした造形が見事です。

江戸時代において、広く学問の神様としての尊崇を集め出した天神画像とともに、文化大名として高名であった前田家の高雅な趣味がうかがえるものといえましょう。

本展は、当館所蔵品と寄託品の中から、刀剣と槍を展示します。

刀剣は、「○備前一文字派景安の太刀」「備前長船派則光の刀」や「加州家次の太刀・刀」「短刀　無銘正宗（正宗作）」「短刀　銘国光（新藤五国光作）」「短刀　無銘義弘（郷義弘作）」等が含まれます。短刀三点は、鎌倉時代～南北朝時代のもので、いずれも前田家伝来の優品です。

また、加賀新刀を完成させた「□初代辻村兼若の刀」や「□三代辻村兼若の刀」、初代兼若の四男で、江戸や小田原で作刀した辻村清平の刀など兼若関係の作品。さらに、越前下坂康継系の重高、越中宇多派の宇多国久等の北陸の刀工の脇指等を展示します。

赤羽刀【赤羽刀は、第二次世界大戦後、連合国占領軍によって接収されていた刀剣類が、平成十一年に国から各自治体へ譲与されたものです。当館でも加州刀を中心に七十点の譲与を受け、研磨・白鞘製作等の整備を行っています。】の中から、加州清光などの室町時代～桃山時代の刀・脇指を展示します。

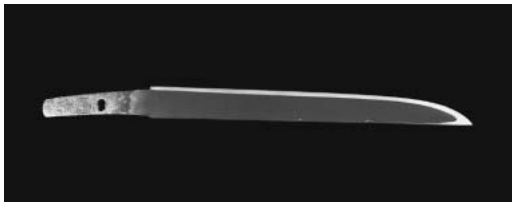
当館では、江戸時代の加州物を中心とした槍を四十四本所蔵しています。今回は大身の槍の両鎬造、平三角造、短い両鎬造、平三角造と十文字槍、笹穂形の槍などを展示しますので、槍の形のおもしろさもご覧いただけると思います。また、藤嶋友重の薙刀も展示しますので、太刀、刀、脇指、短刀、槍、薙刀と刀剣の各種類をご覧いただけます。

○＝重要美術品　□＝石川県指定文化財

十文字槍　銘加州住伊勢大掾藤原兼重

今月のコレクション展示室
（第２展示室）

特　集
名刀と槍
3月4日（土）～3月26日（日）



短刀　銘国光（新藤五国光作）

今月のコレクション展示室
（第３展示室）
特　集
画家と絵皿
3月4日(土)～3月26日(日)

自画像皿　中村研一

画家が手がけた陶芸に焦点をあてた特集です。石川が陶芸の盛んな地であることは今更いうまでもありませんが、本県出身者やゆかりの洋画家・日本画家においても、陶画に筆をふるい、画家ならではの作品を残した人達が数多くいます。筆頭は硲伊之助でしょう。

硲は東京生まれで、フランスではマチスに師事した色彩画家でしたが、戦後古九谷に魅了され、小松で作陶し、遂には加賀市吸坂に窯を築き三彩亭と号して作陶に専念するのでした。

次いで中村研一は、初代徳田八十吉窯で数多くの絵皿を制作しました。それは昭和二十五年頃からであったといいます。光風会や日展への出品者が多くなると共に来県する機会が増え、その際に九谷の色に惹かれたのでした。力強い線が円形の中に走り、中村独自の図案の世界が展開しています。初代徳田八十吉は「新しい九谷の分野が開かれる」と大変喜んだといわれています。師の影響でしょう、高光一也や北濱淳、円地信二も絵筆をふるっています。

また小松出身の宮本三郎も数多くの絵皿を制作しました。戦後に日立の窯場で焼いたものが主ですが、疎開中には小松の徳田窯に足を運んだともいわれています。その弟子吉田冨士夫は創作活動を始めるに際し、磁器会社に勤務して陶芸と洋画の両面に研鑽を積み、終生画家であり陶芸家であり続けました。

湾曲した円や四角形の皿に、限られた色数で描く絵皿の世界は、白いキャンバスに豊かな色彩を駆使して描きあげる油彩とは異なる造形が必要となります。本特集では二つの分野に優れた作品を残し得た画家たちの個性を、絵と絵皿とによってご覧いただきたく思います。

出品作家

硲伊之助、中村研一、高光一也、宮本三郎、吉田冨士夫

昨年三月から九月に〝自然の叡智〟をテーマとし、百二十一カ国四国際機関が参加した愛・地球博（二〇〇五年日本国際博覧会）が開催され、会期中の一八五日間に約二二〇〇万人が来場しました。日本と万国博覧会の関わりは、慶応三年（一八六七）、パリ万博に江戸幕府と薩摩・佐賀両藩が参加したことから始まり、明治六年（一八七三）のウィーン万博に初めて国として参加し、江戸時代以来の優れた技に支えられた工芸品によって世界を魅了しました。

当館では、工芸部門についても、江戸時代から現代まで、陶芸、漆工をはじめ各分野の作品を多数所蔵しています。それはとりもなおさず、前田家歴代藩主によって、早くから奨励策が積極的にとられたことによって、藩政時代から優れた工芸作家を輩出し、また前田家をはじめ優れた審美眼を持った蒐集家が多くいたという土地柄の表れともいえます。

明治維新は政治的にも、社会的にも、また経済的にも激変をもたらし、旧来のパトロンを失った工芸職人たちは一時窮乏にさらされましたが、石川県は国策としてとられた殖産興業の施策にいち早く反応し、明治五年（一八七二）には金沢博覧会の開催、以後石川勧業場の設置、金沢銅器会社の設立、金沢工業高校の開校など藩政時代以来の伝統工芸の復興発展に努力した結果、陶芸では春名繁春、清水美山、漆工では沢田宗沢、大垣昌訓、金工では初代山川孝次、山田宗美など多くの優れた工芸家を生み出しました。近年の万国博覧会の時代再検証の風潮とあいまって、高度の技術が駆使されたことで世界の注目を集め、西洋の工芸界にも大きな影響を与えたといわれている明治の工芸を特集展示し、その魅力を紹介いたします。

今月のコレクション展示室
（第５展示室）
特　集
万国博覧会の時代
－明治の工芸－
3月4日(土)～3月26日(日)

象嵌兜香炉　金沢銅器会社

今月のコレクション展示室
主な展示作品
3月4日(土)～3月26日(日)

◉＝国宝　◎＝重要文化財
□＝石川県指定文化財

画室にて　高光一也

窓辺の静物　戸田博子

前田育徳会展示室
特集　天神画像と文房具
胞輪天神画像
渡唐天神画像　月僊
瑪瑙石硯
紫檀象嵌玉入墨床
紅水晶水滴

第1展示室
◉色絵雉香炉　野々村仁清
◎色絵雌雉香炉　野々村仁清

第2展示室
□色絵鶉草花図平鉢　古九谷
□青手桜花散文平鉢　古九谷

特集　名刀と槍
※2ページをご覧ください。

第3・4展示室（油彩画・彫塑）
特集　画家と絵皿
※3ページをご覧ください。

油彩画
待つ　鴨居玲
画室にて　高光一也
馬ならぶ　南　政善
空の肖像　森本仁平

彫　塑
昇華　石田康夫
ワ・タ・シ　今ナニヲ　梶本良衛

第5展示室（工芸）
特集　万国博覧会の時代―明治の工芸―
※3ページをご覧ください。

第6展示室（日本画）
天女衰相　岡本秋石
山水図　梶野玄山
春を待つ　滝川真人
窓辺の静物　戸田博子
飛鳥をとめ　安田靫彦

◆観覧料

個人	一般	350円
	大学生	280円
	高校生以下は	無料
団体（20名以上）	一般	280円
	大学生	220円
	高校生以下は	無料

企画展TOPIC

県美スペシャル
広重・北斎・歌磨 UKIYO絵展
―眠りから覚めた秘蔵作品初公開―　第1回

浮世絵－江戸の楽しみ①旅と風景－

「浮世絵」というと、どのようなものを連想しますか？富士山を背景に、波しぶきを上げる北斎お馴染の絵を連想される方もいれば、裸体を組み合わせて人の顔を作ってしまった国芳の絵を「あっ、知ってる！」と言う方もいるでしょう。（「いやいや、浮世絵といえば、春画でしょう」という方もいるでしょうが…生憎ここではご紹介できませんね）他にも浮世絵には、当時のヒーロー歌舞伎役者やお相撲さんを描いたものもあり、まさに多種多彩。浮世絵とは、江戸時代の人々の楽しみに応えた摺物（すりもの）（印刷されたもの）だったのです。

旅行が現在も人気のレジャーであるように、江戸時代の人々にとっても、「旅」は大きな楽しみの一つでした。特に江戸時代になって五街道が整備されたことにより（今で言うと、高速道路開通ってところでしょうか）、庶民が遠方へ旅することも比較的容易になり、各地の名勝を巡ることや、寺社へ詣でることが、その目的となりました。北斎の「冨嶽三十六景」シリーズや、広重の「東海道五十三次」シリーズは、こうした各地の風景を描いたものとしてお馴染ですが、人々の「旅心」をくすぐる摺物として、当時の人気を博したのです。

さて、場所はお江戸日本橋。橋を渡る大名行列が迫らんとする、まさに旅の出発地点であります。天保三年(1832)、ここより京へ上った広重は、その旅路の楽しみだけでなく、別れの悲しみ、季節の移ろいといった旅情も含めて浮世絵の中に表現しました。4月下旬から開催する企画展では、浮世絵をとおして、当時の人々の「楽しみ」を感じていただきたく思います。次号では「歌舞伎役者」についてお話ししましょう。

（村上尚子　学芸主任）

※「県美スペシャル 広重・北斎・歌磨 UKIYO絵展」の会期は、平成18年4月23日(日)～5月21日(日) です。

東海道五十三次之内「日本橋」　広重

ミュージアム　レポート

キッズ☆鑑賞講座

12月3日(土)「至芸の世界を鑑賞しよう」

芸術院会員・重要無形文化財保持者（人間国宝）の作品を特集した「至芸の世界」ですが、今回は芸術院会員でもあり、人間国宝でもあった松田権六氏の「蓬萊の棚」を中心に、第5展示室で漆芸の作品を鑑賞しました。

蓬萊の棚にはたくさんの漆芸技術が使われています。また、制作時代の背景からいろんな思いが込められています。講義室で、蒔絵の道具や沈金の道具、厚貝・薄貝などの加飾の道具・材料にふれてみてからコレクション展示室のほうに移動しました。

作品を前にすると、あれ？松竹梅は？鶴亀は？と、こども達の興味・感心が尽きることなく、さまざまな疑問や発見に、加飾の美しさ、技術の素晴らしさに多くの声が聞かれました。また今回は博物館実習生も見学していたのですが、「子供たちの鋭い感性に驚かされてばかりでした」と刺激を受けていました。

ギャラリートーク

12月10日(土)「石川ゆかりの京都の日本画たち」

この特集展示では、館蔵品を中心に、当県にゆかりのある（石川出身や金沢美術工芸大学に関係した）京都を制作の拠点にしてきた作家たちの作品をまとめて展示しました。一般に、テーマを設けた展覧会は、そこに並べられた作品を見ていけば、おのずとなんらかのつながりが見えてくるものですが、本展に関して言えば、全体として作風の特徴や傾向性を見い出すことは難しいと思われ、トークにあたっては、各作家の活動歴や作品の持ち味などを中心に、説明していくことにしました。それだけ、各作家が個性的な仕事をしているということであり、天候の悪い中、足を運んでいただいた方々には、十分なお話ができなかったかもしれませんが、それぞれの個性の輝きを、再発見していただけたのではないでしょうか。

1月14日(土)「茶道美術名品展」

前田育徳会・第2展示室で同時開催の「茶道美術名品展」を鑑賞しました。育徳会の重文「茄子茶入　銘冨士」の4年ぶりの公開にあわせ、第2展示室でも、前田家伝来の茶道具や、利常や綱紀に仕えた仙叟宗室が指導した大樋焼や寒雉の釜を展示し、前田家の茶の湯文化を紹介しました。また、山川コレクションの個性ともいえる香合については、掌に収まる小さな工芸品の魅力を味わっていただきました。さらには本展では、野々村仁清の国宝・重文「色絵雉香炉」、重文「色絵梅花図平水指」、「色絵花笠香合」の4点の作品を一堂に展示する機会となり、仁清の魅力を十分堪能していただけたことと思います。参加者の皆様から、香合など蓋物形体の内部がわかるような、説明展示の要望がありましたので、さっそく後期展示に反映させようと思いました。

展覧会回顧

没後20年　鴨居玲展

いい絵と出会うと人は寡黙になります。じっと見つめて絵と対話するわけですが、それはとりもなおさず、絵に触媒されて自己の有り様、来し方行く末を自問自答することに他なりません。しかし、寡黙さの度合いは絵の傾向によって違いがあるようです。鴨居展の場合は、寡黙というよりは沈黙という言葉がふさわしく、展示室内は緊張感に溢れ、まさにぴりっとしたとか、ひりひりとした空気というのはこうした状況を指すのではと思う毎日でした。くいいるようにご覧になる方がほとんどで、ギャラリートークで声を出すのも申し訳ない気がしたものです。

さて、当館企画での鴨居回顧展はこれが3度目、前2回は点数が130点を超えていました。鴨居作品の鑑賞のされ方を思うと、少し多すぎるのではという思いから、今回は絞って113点といたしました。本来の計画では油彩をもっと精選して、素描を多くしたいと努力していたのですが、思うようにはなかなか行かないものです。鴨居の素描はすがすがしいくらいに線が走っていて、師の宮本三郎の温かな柔らかみのある素描とは違う魅力を放っています。素描に関して残念な思いを抱かれた方も多かったのではないでしょうか。

鴨居の人柄はとても温かでシャイで奇知に富んだものだとうかがいます。それは劇的で重苦しい表現がなされることの多い油彩より、もう少し軽く明るい素描に表れているのではと思うのです。人と作品は別物というべきでしょうが、眉間に皺をよせた鴨居像があまりにも大きくなるのもどうかと思うのです。いずれ鴨居素描展を開催することができればと願う次第です。

（二木伸一郎　学芸専門員）

企画展示室

第３回金沢学院大学美術文化学部卒業研究制作展

3月4日(土)～7日(火)（第7～9展示室）

美術工芸学科（日本画・洋画・陶芸・漆芸）、情報デザイン学科の卒業制作、美術文化専攻科修了制作、また本年度は文化財学科卒業研究報告を含めて、本学美術文化学部生の勉学成果を出品いたします。ご覧いただき忌憚のないご批評を下さいますようお願いいたします。

◇入場無料

◇連 絡 先　金沢市末町10　金沢学院大学美術文化学部
受付 山岸美智子
☎ 076 - 229 - 8775

第29回伝統九谷焼工芸展

3月10日(金)～24日(金)（第7展示室）

昭和51年に郷土が誇る九谷焼の技術保存と発展向上を図るため、九谷焼技術保存会が石川県無形文化財として指定されましたが、本展はその技術保存会の事業一つとして毎年行われている公募展で、今回は29回目です。入選作並びに九谷焼技術保存会会員の作品を一堂のもとに展示します。

◇入 場 料　一　般　350円　大高生　300円
中小生　250円　（団体は各50円引）
※当館友の会会員は、会員証提示により
団体料金になります。

◇連 絡 先　能美市寺井町よ25番地　石川県九谷会館
☎ 0761 - 57 - 0125

05玄土社書展〈併催 日本古代碑の拓本展〉

3月10日(金)～12日(日)（第8・9展示室）

05年の玄土社活動のまとめを展示します。05、6月のパリ日動画廊での「前衛書・表立雲と20人の仲間たち」展は、パリ日動画廊が主催する初めての書展であり、パリ美術界も注目、観客の率直な意見、感想は私たちのその後の作品制作の大きな弾みと指針になりました。

今展は、その抽象表現の作品47点、古典臨莫（りんも）（中国・唐以前、日本・平安まで）作品28点をお目にかけます。

書の古典と、新しい書表現を理解していただく良い機会と思います。ご来場をお待ちしています。

会期中の行事　「表立雲トークタイム」

日時・会場　3月12日(日) 午後1時～　第8展示室

テーマは「日本古代の碑」のわかりやすい実証的なお話しです。（書21、古代の碑、ふるきいしぶみ参照）

◇入場無料

◇連 絡 先　金沢市本多町1 - 7 - 15
玄土社主宰：表立雲　理事長：松村知春
☎ 076 - 263 - 0122

第28回一創会展金沢展

3月15日(水)～20日(月)（第8・9展示室）

新春、東京都美術館にて開催された本展の中から、基本作品、受賞作品及び石川県内作家の力作約120点を選び、金沢での記念巡回展を開催いたします。

何ものにも制約されない自由な作品群をご鑑賞下さい。

◇主な出品作家

横塚　繁　今村昭寛　真辺啓介　寺西武久
西山英二　増田眞人　蓮井廣幸　梅沢曜行
虎井　修　松本陽子　谷口仙太郎　国友　博

◇入 場 料　一　般　500円　大高生　400円
中学生以下無料　（団体は各100円引）
※当館友の会会員は、会員証提示により
団体料金になります。

◇連 絡 先　小松市二ツ梨町ク - 19 - 15　寺西武久
☎ 0761 - 44 - 4235

各地の展覧会 ……3月

※開催日程、休館日、内容等は直接各館へお問い合わせ下さい。

没後20年　鴨居玲展　3/26まで
神戸市立小磯記念美術館（神戸市・078 - 857 - 5880）

古九谷浪漫　華麗なる吉田屋展　3/26まで
石川県九谷焼美術館（加賀市・0761 - 72 - 7466）

No Border「日本画」から／「日本画」へ　3/26まで
東京都現代美術館（江東区・03 - 5245 - 4111）

フランス印象派・近代絵画コレクション　プーシキン美術館展　4/2まで
国立国際美術館（大阪市・06 - 4860 - 8600）

彫刻家　田中太郎展（後期）　4/16まで
石川県七尾美術館（七尾市・0767 - 53 - 1500）

次回の展覧会

春の優品選　（前田育徳会）
石川県の文化財　（第2展示室）
4月1日(土)～4月19日(水)

展覧会回顧

平成17年度開催の展覧会（1）

今年度も当館では、1階の企画展示室や2階のコレクション展示室で数多くの展覧会が開催されました。

企画展示室では、当館主催の**「石川県立美術館の精華－近年の収蔵品から－」、「サントリー美術館名品展－日本美術の精華－」、「没後20年　鴨居 玲展－私の話を聞いてくれ－」、「黒の迷宮－凝視の刻－木下 晋・小林敬性・日和崎尊夫」や、「弘法大師空海 その信仰と名宝展」、「華麗なる17世紀ヨーロッパ絵画」**などの報道機関主催の企画展、また各種美術団体の公募展や巡回展というように、今後3月末までに開催予定のものを含めまして29回を数えます。コレクション展示室で行った特別陳列や特集は32回となり、1階と2階を合計すると61回という多くを数えます。それらの中からいくつかの展覧会を振り返ってみたいと思います。

「石川県立美術館の精華－近年の収蔵品から－」は、この10年間に収蔵された代表的な作品を一堂に紹介するものでした。加賀藩主前田家の保護育成策により、江戸時代から文化の華が咲き、明治以降現代までも常に積極的な施策が行われ、石川県は美術工芸の盛んな地域として発展し、作家の層も厚く、高い水準が保たれてきました。昭和58年の開館以来、当館では石川県の伝統的な芸術的個性を生かした地方色豊かな美術館を目指して作品の収集にも取り組んできました。石川県にゆかりのある古美術品、石川県にゆかりのある作家の作品を中心に、古美術から、近・現代美術まで、純粋美術と工芸というように、全時代・全部門の美術品を収集・展示するという当館の基本姿勢についてご理解いただけたと思っています。また、関連事業として開催しました館長の講演会をお聴きになり、作品収集事業にご理解をいただき、作品寄附のお申し出をいただきました。改めてお礼を申し上げます。

「弘法大師空海 その信仰と名宝展」は、平成16年に高野山を中心とする地域が「紀伊山地の霊場と参詣道」としてユネスコの世界遺産に登録されたことを記念して、高野山の文化財を北陸の地で初めて紹介する展覧会でした。高野山には、空海により唐から請来された品々、高野山で作られた密教美術品、皇族や時の権力者により寄進された品々などわが国最大規模の文化財が今も守り伝えられています。このことから、高野山は『山の正倉院』とも呼ばれています。本展では、豊富な文化財の中から、国宝6件、重要文化財26件を含む精選された80件の展示でした。平成10年の『特別公開 国宝 百済観音』以来の仏像の展示でしたが、仏像の持つ迫力、奥深さに、会場では、そのとき以来の熱気を感じました。

「華麗なる17世紀ヨーロッパ絵画」は、19世紀中頃のバルビゾン派の絵画を紹介する『ミレー・コロー　バルビゾンの巨星たち展』、フォーヴィスムとキュビスムの画家たちを紹介する『ピカソ・マティスと20世紀の画家たち』に続くヨーロッパ絵画の展覧会でした。ポーランドのヨハネ・パウロ2世美術館所蔵品からバロックの時代といわれる17世紀のイタリア・スペイン・フランス・オランダ・フランドルの画家たちの絵画展であり、多くの入場者で賑わいました。

「サントリー美術館名品展－日本美術の精華－」は、リニューアルオープンを控え休館中の同館の特別協力により、美術館相互の交流展として開催したものでした。同館は、「生活の中の美」を基本テーマに日本の美術・工芸品を中心に作品収集・展覧会活動を行っています。本展は、3,000点の収蔵品の中から、国宝1件、重要文化財11件、重要美術品10件を含む名品139件を紹介するものでした。『花鳥の美』『異国との出会い』『遊楽と宴のかたち』『装いとたしなみ』『詩歌と物語』『茶の湯の美』の六つのテーマを構成して展示しましたので、鑑賞しやすかったとのご意見をいただきました。非常に多彩に展開してきた日本美術を堪能することができましたとの感想もいただきました。　　（南　俊英　学芸第一課長）

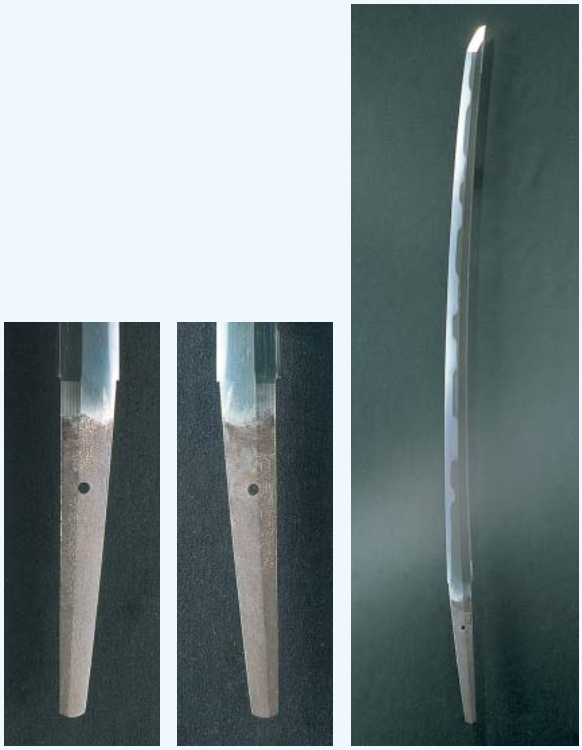
「サントリー美術館名品展」会場

3月の行事案内　《入場無料(ギャラリートークを除く)・いずれも午後1時30分から行います》

月　日	行　事	内　　容	会　場
3/4(土)	ギャラリートーク	万国博覧会の時代　明治の工芸　（寺川和子　学芸主任） ※展示室内で行われるため、コレクション展示の入場券が必要です。	コレクション展示室
3/5(日)	月 例 映 画 会	日本刀　創る人と心と（31分） 北野天神縁起絵巻　道真怨霊の美（23分）	ホール
3/11(土)	美　術　講　座	映像の歩み　写真編(2)　（西田孝司　学芸専門員）	講義室
3/12(日)	ビデオ鑑賞会	正倉院宝物15　文様の遥かな道1(30分) 正倉院宝物16　文様の遥かな道2(30分)	ホール
3/18(土)	美　術　講　座	加賀藩の天神信仰　（村上尚子　学芸主任）	講義室
3/19(日)	月 例 映 画 会	日本刀　－宮入昭平－（25分） 信貴山縁起絵巻　説話空間と漂泊のこころ（23分）	ホール

※３月の全館休館日は2日(木)・3日(金)、27日(月)～31(金)です。

所蔵品紹介 164



石川県指定文化財

刀　銘賀州住兼若

三代辻村兼若

江戸時代　前期～中期

長さ72.0　身幅3.2　反り1.4(cm)

この刀は作柄が素晴らしく、三代兼若の代表作とされています。刀剣は武器として生まれましたが、同時にその美しさが人々を魅了するすぐれた美術品でもあります。刀剣を鑑賞する場合、太刀と刀の区別が難解といわれますが、腰につけたときに刃の部分が下にくるものが「太刀」で、身に付けた際には、太刀を佩(はき)くといいます。一方、上にくるものが「刀」とされ、刀は指すといいます。銘を記すときには、表側に作者の銘がきます。この刀剣の場合、「賀州住兼若」が表側となります。この銘を外側にすると、刃が上にきます。そこで、本作は「刀」と結論づけられます。

裏側には所持銘が切られており、「霊護／寛政庚申仲冬十七／支禦危難子孫宝焉／雅楽助岸駒識」とあって、画聖岸駒がこの刀を所持していたことがわかります。ちなみに寛政庚申とは寛政十二年（一八〇〇）のことです。

この刀は、刀身中央に鎬が入った鎬造で、鋼を折り返し鍛錬してできた肌模様は木材の板目に似ることから「板目肌」と呼ばれます。焼き入れを行った際に、刃の部分と地の部分にそれぞれ硬さの差によって刃文が生じますが、粒子の粗いものを「沸(にえ)」、細かいものを「匂(にお)い」と呼んでいます。

三代兼若は、名を四郎右衛門といい、二代又助兼若の長男です。活躍した時期は、現存する作品によれば、延宝五年（一六七七）から正徳元年（一七一一）の間とされています。

※第2展示室で展示中

3月1日(水)より受付開始!!

新年度友の会会員募集

◎募集定員　1,500名
◎会　　費　2,000円
◎受付場所　当館図書閲覧室
◎受付時間　休館日は除く午前9時30分～午後4時30分
※3月2日(木)・3日(金)・27日(月)～31日(金)は展示替えによる休館日ですのでご注意ください。

◎郵便でのお申し込みについて
①ご希望の方は郵便振替をご利用ください。
②詳細は『美術館だより』第268号をご覧ください。
③会員証は『美術館だより』と一緒に、3月末頃からお送りいたします。
④**郵便振替口座　00700－7－46490**
加入者名　石川県立美術館友の会

新年度会員証(見本)
截金彩色合子「花守犬」　西出大三

会員の特典

★ 当館コレクション展（従来の常設展）に何度でも無料で入場
★ 当館企画展入場券（1枚）の配布
★ 当館企画展の開会式にご招待
★ 当館主催展覧会入場料の割引（同伴者2名まで）
★ 当館主催諸行事への参加
★『石川県立美術館だより』を毎月郵送

お問い合わせは当館普及課友の会係まで　☎076-231-7580

休館日:3月2日(木)・3日(金)・27日(月)～31日(金)

石川県立美術館だより　第269号
2006年3月1日発行
〒920-0963　金沢市出羽町2番1号
TEL 076(231)7580　FAX 076(224)9550
URL http://www.ishibi.pref.ishikawa.jp/

R100 古紙配合率100%再生紙を使用しています